

沿岸重要漁業資源の管理に関する研究[※]

阪本 俊雄・武田 保幸

目 的

南西海区水産研究所資源委託調査魚種以外で本県漁業にとって重要な多獲性魚となっている資源について、モニタリングと診断を行ない、資源の合理的利用について提言を行なうことを目的とする。

調査内容と結果

本年度はマルアジ、スルメイカ、サンマ、カツオの生物、漁獲情報のモニタリング調査を行なった。マルアジ 漁獲物年齢組成と産卵生態を明らかにするために行なった生物測定は表1のとおりである。(資料4)。昨年度調査で得られた年齢-体長相関表から、図1に本年度の輪数群別体長組成を示す。漁獲物年齢組成については、なお補完の必要があるので次年度に報告することにする。

表1 マルアジ体長測定状況

尾、1986.4~'87.3

4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
1,184	1,242	411	650	83	58	600	280	674	125	381	670	6,358

産卵生態については、1984年2月~1986年7月に測定した5,979個体の材料から以下のとおり要約される。^{※※}

産卵期：5~8月、盛期6~7月

卵巣卵の成熟過程：卵径0.6mmで透明卵となり、

最大卵径は約0.8mm。産卵成熟の

目安として $GI/(GW \times 10^8 / L^3)$ 35以上。

産卵加入年齢：満1才の一部。2才以上群は全数。

性比：1.2 (♂/♀)、但し産卵期(5~7月)には1.8~2.0。

産卵場：瀬戸内海東部全域とみられるが、近年紀伊水道外域東側が特に顕著。

今後の課題として満1才群の産卵加入割合を詳細に調査する必要がある。

スルメイカ 太平洋スルメイカ調査の手引き(北水研)により外套背長、体重、精巣重量、卵巣重量、付属腺(♂：精莖囊、貯精囊、輸

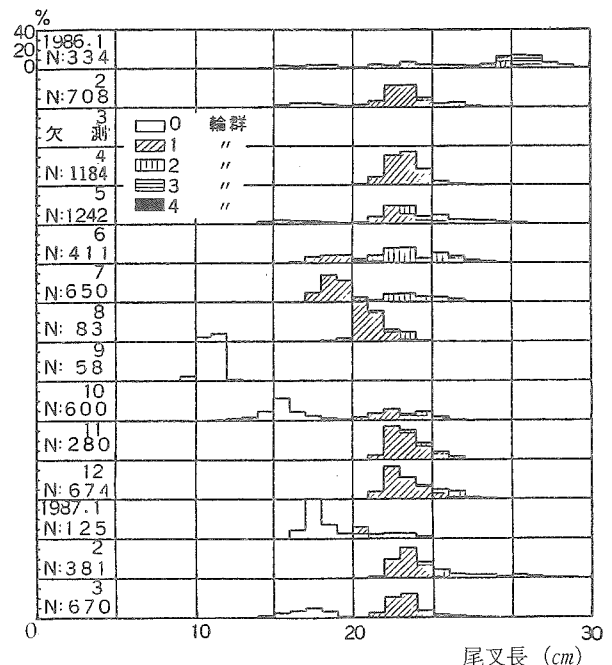


図1 マルアジ輪数群別体長組成

※ 沿岸重要漁業資源の管理に関する研究費による。

※※ 昭和61年度南西海区ブロック外海漁業研究会で発表。

武田保幸・阪本俊雄(1987)：紀伊水道産マルアジの産卵生態について。南西外海の資源・海洋研究, 3, 19-25。

表2 スルメイカの生物測定状況

尾、1986.4~1987.3

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
体長測定	—	204	—	32	—	—	—	—	—	28	—	—	264
精密測定	30	48	88	40	80	75	91	57	40	49	—	83	681
計	30	252	88	72	80	75	91	57	40	77	—	83	945

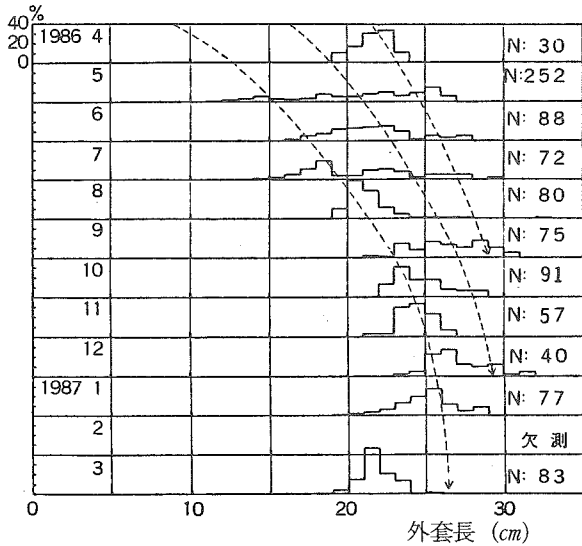


図2 スルメイカ体長組成

精管、♀・輸卵管、輸卵管腺)重量、内蔵除去重量の多項目測定と熟度観察を行なった。測定尾数は表2のとおりである(資料4)。これらの結果から体長(外套長)組成は図2に、成熟群別体長組成は図3、図4にそれぞれ示される。漁獲対象群は秋~春産まれ群で、主群は冬産れ群である。雌は体長約22cm以上、雄は約20cm以上で成熟する。なお、本種に関しては今後2、3年の継続調査が必要である。

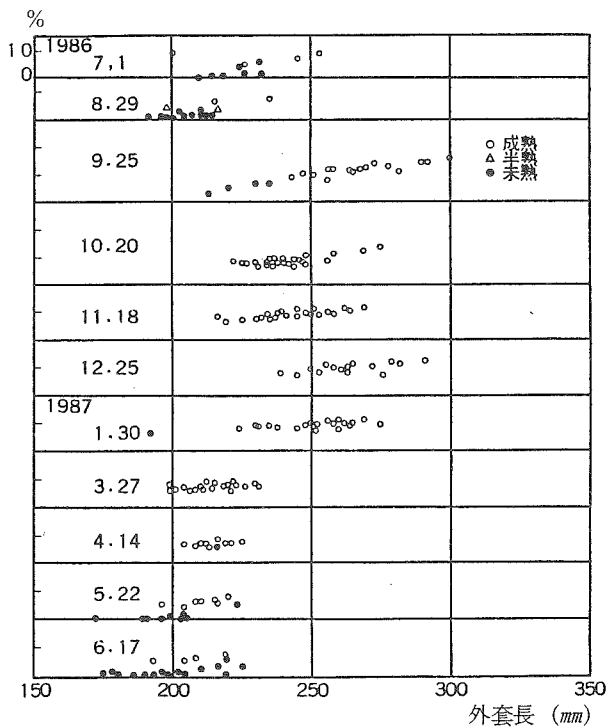


図3 スルメイカ成熟群別体長組成(雄)

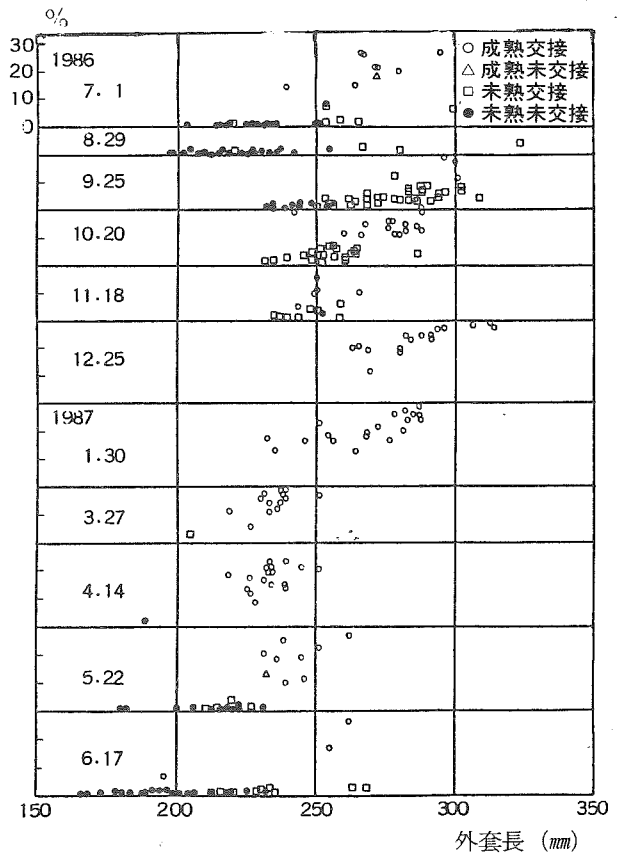


図4 スルメイカ成熟群別体長組成(雌)

カツオ、サンマ 体長測定状況は表3のとおりである(資料4)。今後の課題として、カツオについては夏～秋期来遊群の体長測定の充実、サンマは12～4月の漁期間中の体長測定と成熟度調査の充実があげられる。

漁況については別途漁況、海況予報事業で報告する。

表3 カツオ、サンマの体長測定状況

月	尾、1986.4～1987.3												計
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
カツオ	539	291	143	—	—	88	—	—	—	—	—	333	1,396
サンマ	—	—	—	—	—	—	—	—	226	171	—	—	397